

# 蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆  
近藤龍弘

〒940-0052  
長岡市神田町1丁目4番10  
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆

小林国二・高橋潔・室賀清輝  
高橋利春・屋代健・飯泉隆史  
近藤マリ子・近藤真弘・近藤善信

後援・株式会社アサヒ  
印刷・(株)北越時報社

ご家族の皆さままでご覧ください

## 『自分を知ったら まるくなる』

翠巖 弘

上の詩は、内田哉子様の書かれた、坂村真民さんの詩です。

坂村真民さんは、明治四十二年に熊本県で生まれ、平成十八年に九十七歳で亡くなられた仏教詩人で、一遍上人を敬愛、その生き方に共感し癒しの詩人とも言われており、人生の真理、宇宙の真理を紡ぐ言葉は、老若男女幅広いファン層を持ち、多くの書籍、詩集を発行されております。

私も青春時代、坂村真民さんの詩に出会い、癒され、生きる力を与えられ、四十代半ば頃までは時々、詩集を読んでおりましたが、その後二十数年余りは本棚の奥に入り、目に触れませんでした。季刊紙77号でも触れまし

たが、昨年古稀を迎えたせいか、昔のことがよく思い出され、昨年九月頃より再び坂村真民さんの詩集を時々読むようになりました。

古稀の年齢のせいか、昔は心に留まらなかつた詩の中に幾つかの詩が「こんな詩があつたのか」と心打たれました。その一つに、上の詩の中に「露がおしえてくれたもの、まるいものがいい」とありましたが、「みんなまるい」という詩です。

『いのちあるものはみんなまるくなるうとする いやいのちのない石でさえ、まるくなるうとして波にもまれてるのだ 地球も月も太陽も 梨、桃、林檎、

蜜柑 みんなまるい人間も本当に自分を知ったら、いつのまにか、まるくなる。世尊も輪廻の教えをお説きになった。わたしにはこれが、何よりありがたくうれしい。」「人間も本当に自分を知たらいつのまにかまるくなる」「本当の自分を知るとは何か、まるくなるとどういうことか。改めて深く考えさせられました。季刊20号で紹介した師匠の遺偈や相田みつをさんの詩等々で私自身感じたことを、時折法事等の法話として話をさせていただいております。今後の自分の人生の指針としての詩として、より思惟したいものです。

# 【日々精進(三十八)】

## 自身で見聞きし、触れてみることに

近藤真弘

今年のお盆の時期は休みの関係から帰省ラッシュで大渋滞のニュースが流れていました。真夜中の渋滞、運転されていた方はさぞかし大変だったことと思います。

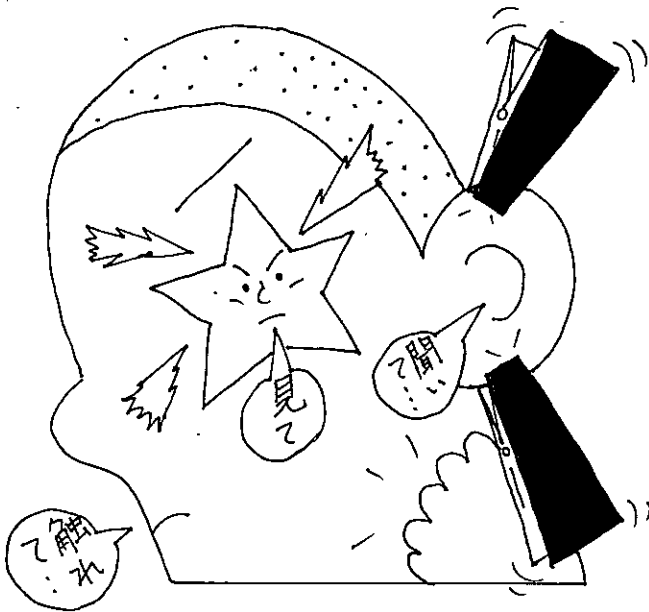
そんなお盆の十三日は例年の如く安善寺にも多くのお参りの方が訪れ、境内は賑いをみせていました。帰省で渋滞、お寺で渋滞なんて方も中にはおられたのではないでしょう。しかし、この境内の賑いはそれぞれ先祖様に感謝を捧げる人たちの集まりで、有難いことと思えます。

最近、5才になる次男の悠真が自転車に乗る練習を始めました。お兄ちゃんの真人がスイスイ自転車に乗るのを見て羨ましく思ったのかヘルメッ

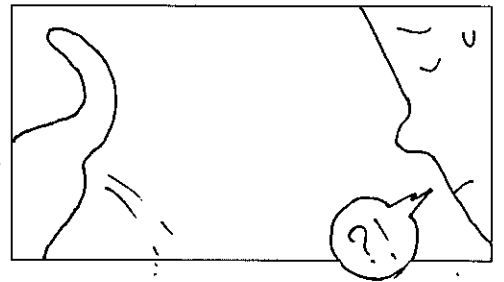
トをかぶり頑張って練習し、支える手を放しても少しは乗れるようになってきました。自転車にというのとは当たり前ですが言葉でいくら乗り方の説明をしても実際に自転車に乗り、操作をしないと乗れるようにはなりません。

自分自身が見て、触って初めて身に付きます。仏教の教えも同じようなことが言われます。禅語に「不立文字(ふりゆうもんじ)」という言葉があります。文字言語を立てない、必要としない意で、お釈迦様によつて説かれ

た法は言語によらず、人の心から心へと直接伝えられるという禅の主張を示す言葉です。坐禅もそうです。坐禅を行じた事のない方にくら言葉で説明してもその本質をとらえることはできません。自らが坐ることが大切です。



近年、フェイクニュースという言葉をよく耳にします。主にインターネット上で流れる根拠のない所謂「嘘」のニュースです。最近では熊本地震の際にライオンが檻から逃げたというニュースが関係のないライオンの画像と共にインターネット上で流れ、多くの人が信じたようです。その他にもアメリカ大統領選やイギリスのEU離脱の選挙の前にも多くのフェイクニュースが飛び交い混乱を招きました。



テレビや、新聞と違いインターネットにはだれでも簡単に情報を流すことが出来ます。それにより情報自体の取捨選択をしなければならぬ時代になってしまいました。不立文字と言いましたが、我々僧侶はお説教や法話など多くの人の前で話をする必要があります。その為、布教講習会といった勉強会もあります。よくいわれるのは話の中で例話を用いるときは、人から聞いた話や、本

なに書いてあった話ではなく自身の体験談が一番良いと言われます。自身の体験した話は当然真実であると同時に、話にリアリティがあり聞き手にも素直に話の内容が入ってきます。何事も、本当の真実は自身が見聞きしたことです。そして自身がものに触れないと本質がわからないことも多々あります。

少し前に、猫が本堂の座布団の上におしっこをしました。家族はちゃんとトイレを用意しているのに何でポブはあんなところでおしっこするんだらう。目撃したわけではないけどポブの仕業だと思っていました。しかし、最近野良猫が本堂に入っているのを住職が追い出しました。犯人はポブかもしれませんし、野良猫かもしれません。ただ、ポブには何となく申し訳ない気持ちになりました。

# 静かに迎えた新盆

金子淳一

借家生活をし、昭和五十年に現在の鉢伏に居を構えました。  
戦後はすぐに東北電力



二歳での少々早い旅立ちとなりました。  
その際、本当のところは分かりませんが、私たちが家族にしてみればありがたいことに、母は連れ合いを亡くした喪失感や悲壮感で塞ぎ込むようなことはありませんでした。これも水泳、ゴラス、観劇、写経、俳句等数々の趣味を持ち、そこで出会った多くの友人との語らいや交流が支えになったのではと、わかまな母が、当時お世話になった方々には感謝の気持ちでいっぱい

です。  
そんな元気いっぱいのもも、数年前には足腰が弱り、人との約束も果たせなくなり、デイサービスを経て、まちだ園にお世話になることになりました。二年少々でしたが終の棲家となったまちだ園で、四月一日に九十二歳で天に旅立ちました。  
親孝行をしなかつた分、悔いのないよう介護はしっかりするとう人もい

「お宅のお母さんはいつも話が上手で賑やかでいいね」、がよく耳にした母の評でした。そのような話を聞いた時には、皆さんとうまく付合っていただいているんだなどホッとする反面、調子に乗り過ぎて場違いなことを言っ

丁目の酒屋の三人娘の長女として生まれました。家業の跡取り娘としての期待を担っていたようです。自分の家には大きな酒蔵があり、奉公人も何人かいたという思い出話を小さい頃はよく聞かされておりました。  
母は、自宅近くの付属小学校から高等女学校(現在の大手高校)に通って青春時代を謳歌したよう



たちだったようです。

しかし、昭和二十年八月一日の長岡空襲で焼け出されると、しばらくは東神田の妙喜寺にお世話になったそうで、庵任様がお経を上げに来られる時

にはこの話を思い出して心の中で感謝いたしております。  
戦争を契機に酒屋を廃業し、神田を引き払った後は、柳原、中島と借間

に勤めたのをはじめ、私と妹の子育てのため私が就職するまでいくつかの仕事をしながら家計を補って



四十九日のお供えを求めに伺った際の、与板屋の女将さんの「金子さんところの三人娘はいつも元気で明るい人でしたね。また寂しくなりますね」との言葉をしみじみと思

# 徒然に風潮

最近の世の中が良く判らない。判っていることは私たちはその中で生きていることです。はて！地球が可笑しくなっている、自然災害が多く世界各地で地震や洪水で多くの犠牲者が出ている、何とも言えない現象だ。ひと頃地球の終わりを言っていた頃があつたがそうならなかつた。そうならいつたら今は文章を書いていることはない！

自然の営みに人間が手を入れて生態系まで可笑しくしたと言つても過言ではないだろう。生命の大切さを理解できていない者の仕事と言える。そんなこんなのことをちよつと書いてみようと思う。多分、支離滅裂な文章になるだろうから先に断つておく。

とがなく退屈な様子、手持ちぶさたな様子。どうしようもなく一人物思いに沈むさま。風潮Ⅱ時代の推移に伴つて変わる世の中のあるさま。題名からして怪しい文章になることは間違いない。

人は何故に殺し合うのか！ 人種・宗教・思想・格差・そして戦争といろいろな理由があるが殺し合の歴史は収まらない。言えは・話せば判ると言う考えは同等な人の言うことで、そうでないと言ふ前に殺される。今やどこかの国がミサイルを飛ばす危険な花火遊びをしている。それに対抗しようとする標的になる国は躍起だ。話せば判る状態ではないよ。うな気もするから、対抗せねばならぬだろう。座して死を待つなどと恰好はつけていられないの

も現実である。

先般、日本中にJアラート・全国瞬時警報システム(ぜんこくしゅんじけいほうシステム、通称・J・ALERT)が鳴り響いた。丁度、空襲警報の現代版と言つたところ。戦争なんて誰もしたくないししてはいけない。こちらがそう思つていても相手のあること！ 手を差し延べる前に撃たれて終わり、それが現実だ。何とか友好条約などと言つていても北の大国は日本を攻めて漁夫の利を得た事実もある。

戦後GHQの政策は日本人骨抜き作戦だ。現代的に見れば見事に成し得たようだ。国旗も国歌も否定する国民が誕生している今日可笑しいと思うのは私だけでしょうか？ いろいろ考えはあるでしょうが可笑しい考え方と言わざるを得ない。ましてや無関心など言つて知らんぷりは持つての

他！ もつと真剣に国を考えよう、などと言つていると右翼だの右寄りだのと言われる。国を愛し地域を大切に思いそこに暮らす人と共に幸せになることがいけないのでしょうか？ いろいろなことが起きているだけに何を信じたらよいのでしょうか！

れていることに気付かない人も多い。若者とお年寄りでは現政権支持が圧倒的に若い方が多い。ネット社会の若者は情報を多角的に見て判断する。お年寄りはワイドショーで洗脳されてしまう、その違いだそう。確かことが判らなくなつてしまう現代は



最近のニュースは可笑しくない？ フェイクニュースの垂れ流し捏造報道など信じられないことが起きています。朝から晩まで政権批判で国民視聴者を洗脳する行為が良いとは思わないでしょう。でも、それで洗脳さ

余程注意せねば危ない。さてさて、あまり深くを言うつもりはないが、自然の猛威にも困つたものです。温暖化による気象のゆがみは各地に災害をもたらしている。地震・雷・火事・親父と言われた時より更に凄まじい。

地震・雷・火事・洪水の自然災害は後を絶たない。特に地震についてはいつどこで起きるか判らない。2019年5月19日に関東直下型地震が発生し、火災が起きて相当ダメージを受けるという話が巷を駆け巡っている。嘘か本当かは別に、何も起きねば問題ないがもし起きれば大変である。一応知つておいた方が良いでしょう。ガセネタと言われなくても良いが、頭の隅に置いておいて欲しい。情報源は明かせないが記憶して気をつけて欲しい。などといういろいろな情報が入つて来る世の中であり、何が起きてても不思議ではない世の中である。徒然なるままに書いているが、何の根拠も示さないから、馬鹿な文章と一笑して構わない。それでもここまで読み進めてくれた皆様に感謝申し上げます。たまに、こういう文も楽しいでしょう。

小林国一 拝

# 古稀を超えて思うこと

高橋利春

私は、新発田の清水園の近くで生まれ、父より将来は就職しやすい土木技術者になれと、新発田商工土木科に入学、将来の自分を考え始めて学生時代にやれるだけの事はやっておこうと思ったのでした。

大学へ行けないなら資格で認めてもらおうと国家資格を、高校2年で測量士補、3年の5月には測量士を取りました。

秋には国家公務員試験に合格し、父に相談したら「公務員が良い、安定しているのだからゼネコンより公務員だ」という事で昭和40年に建設省長岡工事事務所に入省し、その頃は自分で測量水標の目盛板の取り付けや、堤防法線等の打設等やったものです。現場までの道程は国道ですら砂利道で後ろの車は砂

煙で夏でも窓を開けられなかった時代でした。

ここでも国家資格を取っていいこうと、土地家屋調査士・中級国家公務員試験に合格しました。

そんな中で一番の思い出は信濃川経済調査のとりまとめでした。信濃川が妙見付近で破堤したら

何処まで被害が及び、推定被害額が何億、何十億だと、豊6枚もある様な地図を広げて浸水深を描き算定しました。我が給料が12,800円/月の頃の話です。田中角栄の千秋が原河川敷問題が起きていた時代でした。

相当の残業をしてとりまとめ、霞ヶ関の本省への提出であるが風呂敷包みで20kgくらいはあったと思います。朝一番に届ける事になっていました。1年先輩のKさんと2人

で風呂敷包みを抱えて夜行列車に乗って本省へと向かいました。緊張してあまり良く寝られなかったのですが、朝の5時には上野に着いていました。

1番列車もまだ動いていない深夜喫茶等皆無の時代です。駅前で風呂敷包みを抱えてキョロキョロと休み場所を探しているとき、お巡りさんの職務質問に掛かってしまい「手荷物を開いて見せろ」との事、これから建設省の本省に持参する物であるとい

つても信用されず、とうとう交番に連れて行かれ、風呂敷包みを広げさせられてようやく納得されたものでした。

お陰で交番を出る頃には喫茶店も開いてモーニングセットを食べて無事書類を届けた記憶は忘れられない一件でした。

役所を辞めるきっかけは信濃川の定期横断測量でした。長岡市内にはまだ大きな測量をやる会社はなかったので東京の測量会社が2名で3ヶ月位滞在して、ガッチリと稼

てみたいと思い、役所を飛び出してしまいました。しかし20歳ではまだ世間から相手にされないだろう、また建設省に10年もいたら辞められなくなると思い、建設省を2年で辞

と測量会社に10年勤め、昭和53年4月に土地家屋調査士・測量士・それと一級建築士事務所の個人事務所として独立、秋には高橋調査設計(株)代表取締役役に就任しました。

お陰様で測量・建設コンサルタント・一級建築士事務所・土地家屋調査士事務所、行政書士事務所等、土地・不動産に係るワンストップサービスの行える会社を興して40年、次の世代を迎えようとしているところです。

そんな私が平成27年春には黄綬褒章を拝受し、天皇陛下より拝謁の荣誉と共に温かい励ましの言葉まで賜り、そして健康で古希を超える事が出来ました。

妻をはじめ家族の皆さんありがとう。そして社員、友人、周囲の皆様本当にありがとうございます。両親に感謝し今回の稿を終えます。 合掌



私と、大切な家族

いでいつている姿を見て、自分も測量したり設計したり己の力で精一杯働い

めたのです。独立は30歳を目標にもっと資格を取って人に認められるように

# 禅の教えは毎日が好日です



「大安とか友引とか聞きますが、仏教と関係あるのですか？」と聞かれることが多々あります。私共、曹洞宗の僧侶が毎年使わせていただいております「曹洞宗手帳」に「六曜と迷信について」として毎回記載されており、それを転載させていただきます。

「大安」とか「友引」とか聞きます。

「六曜」は古代中国の思想が日本に伝わり江戸時代に定着したもので、元来は時間を区切る世俗的指標として六日ごとのサイクルを定めたものです。それが逆に日にちの吉凶として、人々の行動や生活を左右し、縛る方向へと

定着していった側面もあります。たとえば「仏滅」の「仏」はもともと「物」という字だったのですが、明治時代、曆業者が「仏」の字を当てて広めたことにより、仏教と関係があるように思われるようになりました。また、結婚式等で吉日とされる「大安」は江戸時代には「泰安」、「友引」は「午前」と「午後」の間で「ひきわけ」(共引)と言われていたようですが、元来仏教の教えとは全く関係がありません。本来、禅の教えとは「日に吉凶無し」「日は好日」であり、尊くない日は一日もありません。私たちは、正しい教えにもとづいた見方や考え方を持って迷信や俗言、悪しき「習わし」や「しきたり」を断じる意識を持つことが肝要です。そして偏見や迷信がもた

# KAKA笑の会 御礼とお詫び

七月二十二日に開催されました「怪談・十三墓標」には八十余名の方々からお運びいただき、会員一同心より御礼申し上げます。

ただ、出演者の方のご要望で、マイクを使わず講演していただいた結果、「聞き取りにくく、内容も分からなかった」というお声が多くの方々から届きました。大変ご迷惑をおかけ致しましたこと、紙面をお借りしてお詫び申し上げます。

そんな中、当日会員の

らすあらゆる差別の解消と人権確立のために取り組まれるようお願いいたします。」と書かれております。

毎日が良い日です。今日一日を大事に生きていきたいものです。

方が身の丈くらの竹で編んだ灯籠に明りを灯し、玄関前の竹に吊るして皆さまをお迎えしていたのですが、後日、「身の丈にあまる民芸灯籠を門に灯して古刹夜咄」来られた方から励まされる句を頂戴いたしました。

## 【次回の二案内】

■一部 和泉妃夏の「女優・和泉妃夏の一人芝居・落語」

■二部 一人芝居「天守物語」

落語 「健康落語」

十月二十八日(土)午後六時より

会費 二、〇〇〇円

和泉妃夏

コントロールドプロダク

ション所属。「山形つや姫」

観光大使。「尾瀬の里」観

光大使。劇団四季研究所

出身。NHK大河ドラマ「北条時宗」で北条芳子役でデビュー。舞台・ドラマ・映画などで活躍。一人二役十八役ファンタジー映画「愛のレシピー卵ランド」はTBS「水曜日のダウンタウン」で紹介されました。ギネスになる記録達成。

## 旅立ち

平成廿九年七月一日〜八月末日まで

桑原 正雄様 七月九日寂

長岡市西宮内

水澤こず美様 八月一日寂

長岡市亀貝

鈴木 博様 八月十一日寂

長岡市蔵王

阿部 正樹様 八月廿七日寂

長岡市江陽

ご冥福をお祈りいたします

# 副住職 通信

## 「お米を送る運動」

### ご協力をお願い

今年も昨年に続き「大本山總持寺にお米を送る運動」を実施いたします。昨年は全体で約八・五ト

ン、安善寺檀信徒様からも5名の方に、一七〇キロの献米を頂戴いたしました。修行僧に新潟の美味しいお米を送る運動です。是非皆様のご協力をお願いいたします。

#### 詳細

◎平成二十八年度(昨年度)産の玄米をご提供ください。

◎三十キロ又は十キロお米袋に「住所」「お名前」「重量」をご記入ください。

修行僧に越後のおいしいお米を!



◎十月二十五日までに安善寺にお届けください。

お届けが難しい方はご連絡をいただければお伺いします。

ご不明な点は副住職にお尋ねください。

## 落ち葉で焼き芋の

### ご案内

子供のころ庭で落ち葉を集め、たき火をして焼

き芋を焼いた。そんな思い出を持つ方もたくさんおられると思います。童謡にもある「たき火」。近年では詩は流れてもたき火を實際に行っている風景を見ることがなくなりました。この度お寺では昨年に続き子供を対象に落ち葉で焼き芋を企画いたします。参加費は無料で、参加者で落ち葉を掃き、たき火をして焼き芋を焼くイベントです。昨年は四〇名を超える参加があ



りました。古くからの日本の秋の行持に多くの方の参加をお待ちしております。尚、開催日につきましては十一月を予定しております。詳しくは副住職にお尋ねください。落ち葉を燃やすに際し、消防署への届け出をいたします。

## 坐禅会のご案内

地元の曹洞宗の青年会「長生会」主催で、十一月六日(月)に栃尾の曹源寺様会場で坐禅会を行います。日帰りの坐禅会で、安善寺から送迎もいたします。坐禅初体験の方でも一からご指導いたします。会場になる曹源寺様は六〇〇年もの歴史を持つ曹洞宗の古刹です。是非多くのご参加をお待ちしております。お申し込みされる方、詳細は副住職にお尋ねください。

お寺で焼き芋

子供たちに日本の文化を伝えます

11月開催  
安善寺境内

参加無料  
(要事前申し込み)

詳細はお寺にお尋ねください  
安善寺

ボブの独り言

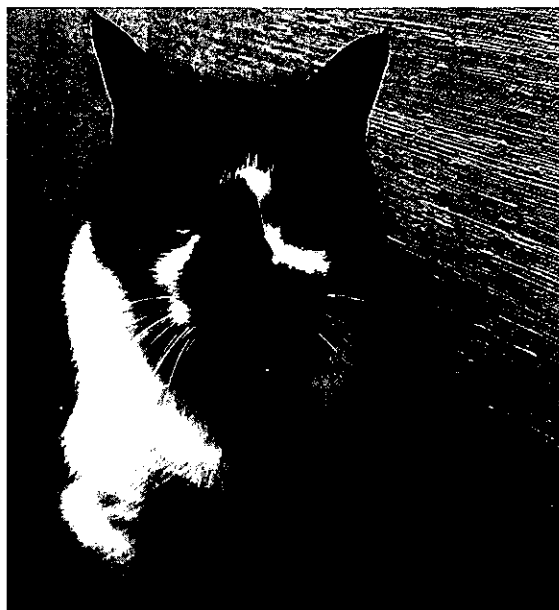
# 天井裏には何が？

## ボブの独り言

今年のお盆後は、私が外に出ても気持ち良いくらい涼しさでした。蟬の鳴声もいつの間にか鈴虫の音に変わり始めています。

時折、住職の休んでいる天井を何かが歩いている音がするようになりました。周りを見渡しても、鉄筋で何処からも外部の侵入者など入る所がないのに？「ボブが歩いてるんじゃないの？」なんて、私に疑いの目が向けられたりもしましたが、天井裏に何かが入ってきているようです。下から棒で突くと、音がしなくなってしまうが…。

そんな音には、ももは知らん顔なのに、最近、宅急便の車が境内に入ってきただけで、エンジンで音が分かるみたいで、け



たたましく吠えるようになりました近所迷惑が気になってしまいます。

八月も終わろうとしてある日の夕方、いつもカラスが駅に向かって移動している時間のころでした。庭からもの凄いいカラスの鳴声が聞こえてきたのです。まるで、何十羽ものカラスがすぐそば

にいるような…、「あんな大量のカラスが駅に行かないで、庭に途中下車したらどうしよう！」って話していたら、暫くして静かになりました。

翌朝、庭に出てビックリです。カラスの羽があちこちに散乱していました。「ボブは、昨日は外に出てないよね」、またし

でも私に疑いの眼差しが向けられてしまったのです。天井裏の侵入者かも知れませんか。何がいるのか？早く解決してほしいものです。私に疑いがかからないように…。

「ボブだ！何でボブが写っているの？読んで」言われるままに、さわりだけ読んだパーバに「ここ全部でこれだけじゃないでしょ？みんな読んで」ニコニコしながら聞いていた真人君は、満足そうにタッチして二階にあがっていききました。成長したんですね！

### 編集 雑感

地球は異常気候かと云われてかなりになりました。毎年のように集中豪雨、竜巻、雷、極端の温度差。日本にはハッキリとした四季がありますが、私の子供頃は春・夏・秋・冬がもう少し緩やかに移り変わっていたように思います。やはり地球の温暖化が原因なのでしょう。

そんな気象の中、今年も秋が深まっています。秋分の日九月二十三日を挟んで前後三日が彼岸。太陽が真東から昇り真西に沈む秋分の時、いま私たちが生きている世界(彼岸)とご先祖様のおられる極楽浄土の世界(彼岸)が最も通じやすい日ということ、ご先祖を供養するよ

### お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面を深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

#### 原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問(編集部や住職がお答えします)など。
- 嬉しい・楽しい／嬉しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。

うになったとのこと。一日目・分け与える、二日目・規律を守る、三日目・怒りを捨てる、四日目・ご先祖様に感謝、五日目・努力する、六日目・心を安定させる、七日目・智慧を得る。こんな思いで過ごす期間とされています。簡単そうですが、私には何時も何処かで頭から抜け落ちていることばかりです。せめてこの期間少し意識してみようかと思えます。

片づけをしていた時一枚の写真が出てきました。雲で月が見えないので白い紙を鍋の蓋で切り出し、紙に貼り付け、お団子をお供え、ススキを飾った脇で笑っている可愛い？子供が私でした。十五夜お月さまと遊んでいたものでしょう。欠けてない満月が豊穡の象徴として、名月の鑑賞と収穫の感謝祭的な意味合いになってきたものといわれます。今年の十五夜は十月四日です。毎日忙しい中にも、チヨットした日本の四季に遊ぶ風流を大事にしたいものです。

高橋 潔